

## INDEX

---

- 「福島医薬品関連産業支援拠点化事業」キックオフミーティング
  - ヒトゲノム倫理指針の見直しについて
  - 「研究成果報告会」開催報告
  - BioPh Japan (バイオフィーマージャパン) 開催のご案内
  - JBIC 会員企業からのご案内：次世代医薬「核酸医薬」創出に向けた Strategy
- 

---

### ■ 「福島医薬品関連産業支援拠点化事業」キックオフミーティング

---

「福島医薬品関連産業支援拠点化事業」のキックオフミーティングが、2013年2月18日に福島市で開催され、180人以上の参加者があり、大変盛会でした。日経BP社宮田満氏と理化学研究所創薬・医療技術基盤プログラムディレクター後藤俊男氏による基調講演があり、その後、福島県立医科大学医療-産業TRセンターの和栗聡教授と渡辺慎哉教授から福島医薬品関連産業支援拠点化事業の概要説明がありました。

この概要説明では、次の3つが強調されていました。この事業では、県立医大及び周辺病院で採取された臨床サンプルから担がん動物や不死化細胞等を作製するだけでなく、遺伝子発現プロファイル等を用いてサンプル間の相違を横並びで解析・評価しているところが特徴であり、これらの成果を活用して製薬企業等における医薬品及び検査・診断薬の開発を支援することを目的としている。

本事業は、福島県の復興事業であり、参画する製薬企業等にサンプルを提供するのではなく、福島の地に来てこれらのサンプルを使用した試験等を行って貰うことにより復興事業に貢献して貰う。また、この事業は10年間であるが、この事業終了後には国からの資金的な支援がなくても独立採算でこの事業を継続して実施することが使命となっており、これらの事業成果を活用した

受託研究を行う CRO(Contract research organization) 的な組織を立ち上げ、この福島の地に新たな産業を創出することを目指している。

従来は手術で切除した試料から遺伝子発現プロファイルを取得していたが、遺伝子発現解析技術の革新により、内視鏡を用いて臓器等組織の一部を採取して得られた 1mm 角程度の微量な切片や末梢血からでも遺伝子発現プロファイルの取得が可能となったので、がんだけでなく、手術できないような疾患や感染症のような疾患まで対象を広げたい。

JBIC は、会員企業である製薬企業及び検査・診断薬企業等の 17 社をとりまとめて本事業に参画しており、研究開発業務の一部と本事業の成果の製薬企業等への円滑なる橋渡しを担う成果活用・創薬等支援業務を実施しています。JBIC としては、この福島県復興事業に貢献できるように最大限の注力体制で臨みますので、ご支援、ご協力の程を宜しくお願い致します。

---

## ■ヒトゲノム倫理指針の見直しについて

---

ヒトゲノム倫理指針の見直しが 2 月 8 日付けで官報告示され、経済産業省から周知依頼がありましたので、以下にご案内いたします。

### 1. ヒトゲノム倫理指針改正の趣旨

近年の遺伝子解析技術の進展に伴い、より高速、大量かつ簡易な解析が可能になり、解析研究の内容や方法が多様化していることから、本指針の見直しに向けた対応が求められていた。このため、文部科学省、厚生労働省、および経済産業省の三省は共同で、本指針の見直しに向けた検討を実施し、平成 25 年 2 月 8 日に指針の全部を改正する告示を行い、同年 4 月 1 日から施行。

### 2. 主な改正点

#### (1) 全体構成を整理

ゲノム指針の全体構成を見直し、「第 4 倫理審査委員会」「第 6 個人情報の保護」など、独立した項目を新設。

#### (2) 既存試料・情報の外部提供

ヒトゲノム・遺伝子解析研究において長期的な追跡研究等の推進に資するよう、外部の機関が保存している既存試料・情報について、連結可能匿名化の状態に

より提供する場合の要件・手続等を定めた。(改正指針第 5 の 15 (2) 関係)

(3) インフォームド・コンセント

試料・情報の提供を受けるに当たって、他のヒトゲノム・遺伝子解析研究における利用や他の研究機関への提供が将来的に想定される場合には、その可能性や利用手続等について提供者に十分な説明を行った上でインフォームド・コンセントを受けることとした。(改正指針第 3 の 7 (3) 関係)

(4) 遺伝情報の開示

ヒトゲノム・遺伝子解析研究により得られる遺伝情報については、提供者の健康状態等を評価するための情報として精度や確実性が十分でない場合があること等から、その特性を踏まえて当該情報の開示の方針を定めた。また、提供者からインフォームド・コンセントを受ける際には当該方針を説明して理解を得る等、遺伝情報の開示に係る要件・手続等を定めた。(改正指針第 3 の 8 関係)

(5) 安全管理に配慮した遺伝情報の取扱い等

遺伝情報の取扱いに係る安全管理措置の明確化及び研究者・倫理審査委員会の委員に対する教育・研修に係る規定を新たに設けた。(改正指針第 5 の 12、第 2 の 3 (11) 及び 4 の (8) 並びに第 4 の 10 (7) 関係)

### 3. 公布・施行時期

平成 25 年 2 月 8 日公布

平成 25 年 4 月 1 日施行

詳細については、以下をご参照下さい。

<http://www.meti.go.jp/press/2012/02/20130208001/20130208001.html>

---

■ 「研究成果報告会」開催報告

---

JBIC およびエピゲノム技術研究組合・次世代天然物化学技術研究組合が本年度に実施した研究開発事業の研究成果報告会を 2013 年 2 月 12 日に開催しました。当日は、JBIC 会員企業をはじめとする 120 名超の皆様にご出席いただき盛況な報告会となりました。

報告会では、JBIC が実施しているプロジェクト「創薬加速に向けたタンパク質構造解析基盤技術開発」、「福島医薬品関連産業支援拠点化事業」と JBIC が参画しているプロジェクト「有用天然化合物の安定的な生産技術開発」、「後天

的ゲノム修飾のメカニズムを活用した創薬基盤技術開発」について計6名の先生方にご講演いただきました。

講演要旨をご希望の方は下記までお問い合わせ下さい。

【お問い合わせ】

事務局 (JBIC 内)

〒135-8073 東京都江東区青海 2-4-32 TIME24 ビル 10 階

TEL : 03-5531-8553 E-mail : project2012@jbic.or.jp

-----  
■ BioPh Japan (バイオフア-マジヤパン) 開催のご案内  
-----

今後益々注目を浴びるバイオ医薬品業界。その最新技術・サービス・研究成果が一堂に集結する『BioPh Japan (バイオフア-マジヤパン)』が開催されます。

会期中は世界中からバイオ関連企業が出展・来場します。

バイオ医薬品は世界中で急速に成長している分野の1つです。各製薬メーカーにとっては、今後、“バイオテクノロジー”が企業の成長のキーポイントになってきます。

BioPh Japan、4 展示会と併催することによって、バイオ関連企業はもちろん、製薬・医薬業界から多数ご来場するため、幅広く、効率が良いマーケティングが可能です。また、CPhI、ICSE、P-MEC、BioPh は、UBM が日本以外でも、欧州、インド、中国、南米において毎年開催しているため、世界中からバイオ関連企業の担当者が来場します。是非、これを機会にご出展をご検討ください。

開 | 催 | 概 | 要 |

展示会名: BioPh Japan 2013

同時開催: CPhI Japan / ICSE Japan / P-MEC Japan/ Pharmatec Japan

会期: 2013 年 4 月 24 日(水)・25(木)・26(金) 10:00-17:00

会場: 東京ビッグサイト 東 4 & 5 ホール

主催: UBM ジャパン株式会社、UBMi BV、化学工業日報社

同時開催: MEDTEC Japan 2013 (医療機器の設計・製造に特化した専門展示会)

出展社数: 500 社(予定) \*併催展との合計

来場者数: 15,000 人(予定) \*併催展との合計

BioPH Japan URL: <http://www.cphijapan.jp/info/bioph.html>

CPhI URL: <http://www.cphijapan.jp/>

-----  
出展にご興味がある方は、下記のウェブサイトから資料請求をお願いします。

<https://ubm-japan.com/cphi/form/request.php>

---

**【BioPh Japan ご出展のお問い合わせ】**

CPhI Japan 運営事務局 (UBM ジャパン株式会社内)

担当: 仁藤、大内、中村、友利

TEL: 03-5296-1020

FAX: 03-5296-1018

Email: [info@cphijapan.com](mailto:info@cphijapan.com)

URL: <https://ubm-japan.com/cphi/form/request.php>

---

-----  
**■JBIC 会員企業 (日本新薬株式会社) からのご案内**  
-----

弊社 (日本新薬) 理事の森所長がオーガナイズしている核酸医薬品のセミナーが開催されますので、ご案内いたします。

**【セミナー名】**「次世代医薬「核酸医薬」創出に向けた Strategy」

**【開催日】** 2013 年 4 月 26 日(金)

**【会 場】** 品川コクヨホール

**【詳 細】** [http://www.dialogue2005.com/nucleic\\_acid\\_2013/index.html](http://www.dialogue2005.com/nucleic_acid_2013/index.html)

**【講 師】** [http://www.dialogue2005.com/nucleic\\_acid\\_2013/keynote\\_speakers.html](http://www.dialogue2005.com/nucleic_acid_2013/keynote_speakers.html)

**【申込先】** ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓

[http://www.dialogue2005.com/nucleic\\_acid\\_2013/registration.html](http://www.dialogue2005.com/nucleic_acid_2013/registration.html)

---

**【Organizer】**

森 和哉 氏

日本新薬株式会社東部創薬研究所長

**【Keynote Speakers】**

「筋ジストロフィーに対する治療法開発のストラテジー」

武田 伸一 先生

独立行政法人国立精神・神経医療研究センター

トランスレーショナル・メディカルセンター長

神経研究所 遺伝子疾患治療研究部長

「核酸医薬品デリバリーのための超分子ナノキャリア設計」

片岡 一則 先生

東京大学 大学院工学系研究科マテリアル工学専攻 教授

東京大学 大学院医学系研究科疾患生命工学センター 臨床医工学 教授

「システム研究による RNA 階層での炎症制御機構の解明」

浅原 弘嗣 先生

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 システム発生・再生医学分野教授

「分泌型マイクロ RNA の医療応用への可能性と将来展望」

河原 行郎 先生

大阪大学 大学院医学系研究科遺伝子機能制御学

生命科学研究独立アプレンティスプログラムテニュアトラック 准教授

「リン原子修飾核酸医薬の立体制御」

和田 猛 先生

東京大学大学院新領域創成科学研究科メディカルゲノム専攻

システム医療科学講座医用機能分子工学分野 准教授

---

**【申込先】**

[http://www.dialogue2005.com/nucleic\\_acid\\_2013/registration.html](http://www.dialogue2005.com/nucleic_acid_2013/registration.html)

---

**【事務局】**

次世代医薬「核酸医薬」創出に向けた Strategy 事務局

ダイアログ株式会社

mailto:forum@dialogue2005.com

http://www.dialogue2005.com/

---

---

---

めるまが1月号より「JBIC 会員企業からのご案内」の項目を新設しました。  
JBIC 会員企業で掲載して欲しい記事がございましたら、ご連絡ください。  
なお、掲載の可否については JBIC 事務局にて判断させていただきますので予め  
ご了承ください。

●JBIC に関するご意見、ご質問、お問い合わせはこちらから。

<https://www.jbic.or.jp/roku/voicebox/input.html>

---

●配信中止、変更はこちらから。

[https://www.jbic.or.jp/roku/m\\_chushi/input\\_ch.html](https://www.jbic.or.jp/roku/m_chushi/input_ch.html)

---

●発行:一般社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム

JBIC めるまが編集部 <http://www.jbic.or.jp/>

---

Copyright(c) 2013 JBIC. ALL rights reserved.